2.G.2.- 防音窓（Soundproof Windows）（SF_6）

１．排出・吸収源の概要

１.１ 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

二重防音窓の充填ガスとして SF_6 が使用されており、二重防音窓の組立時（二重防音窓への SF_6 充填時)、使用時及び廃棄時において SF_6 が排出される。

2013 年度の検討において、SF_6 を使用した二重防音窓が受注生産により製造されていることが確認されている。ただし、2012 年は出荷実績がなく、過去の封入量も少なく、かつ近年は減少傾向にあることが分かっている。

二重防音窓からの SF_6 の排出については、過去から SF_6 の使用実績があるものの近年減少傾向にあり、SF_6 の排出量を試算したところ最大でも 3,000 t-CO_2 eq.未満であることから、排出量は「重要でない（considered insignificant)」という意味での注釈記号「NE：未推計」として報告している[1]。

１.２ 排出・吸収トレンド及びその要因

記載事項なし。

２．排出・吸収量算定方法

記載事項なし。

３．算定方法の時系列変更・改善経緯

表 1　初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	2015 年提出
排出・吸収量算定式	2006 年 IPCC ガイドラインの適用に伴い、新たに対象となった本排出源の排出状況を確認。
排出係数	－
活動量	－

（１）初期割当量報告書における算定方法

2006 年 IPCC ガイドラインから新たに追加された排出源であり、初期割当量報告書では算定していなかった。

[1] 平成 24 年度インベントリ WG において、2013 年以降のインベントリ作成に適用する改訂 UNFCCC インベントリ報告ガイドラインで排出量が小さい（新規）排出源について重要でない（considered insignificant）排出源として「NE：未推計」を使用することが可能となったことを受け、注釈記号「NE」を適用する場合のデシジョンツリーを策定した。このデシジョンツリーに従うと排出量が 3,000 t-CO_2 eq.未満の排出源は「NE」が適用されることになる。

（2）2015 年提出インベントリにおける算定方法

2006 年 IPCC ガイドラインにおいて本排出源が新規排出源として追加されたため、算定方法を検討したが、排出量が小さいことから、「重要でない」という意味での注釈記号「NE」として報告することとした（現行の算定方法と同様。）。